



平成31年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成31年1月31日
上場取引所 東

上場会社名 ワタベウェディング株式会社
 コード番号 4696 URL <https://www.watabe-wedding.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 花房 伸晃
 問合せ先責任者 (役職名) グループ管理本部長 (氏名) 鈴木 眞治 TEL 075-778-4111
 四半期報告書提出予定日 平成31年2月1日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	36,940	7.1	1,107	7.1	1,210	12.6	715	24.4
30年3月期第3四半期	34,480	2.1	1,034	△33.3	1,075	△15.3	575	7.2

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 752百万円 (26.3%) 30年3月期第3四半期 596百万円 (0.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	72.21	—
30年3月期第3四半期	58.04	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	25,501	11,140	43.6
30年3月期	24,354	10,451	42.8

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 11,123百万円 30年3月期 10,425百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
31年3月期	—	0.00	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 平成31年3月期の期末配当予想額は未定としております。

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,000	4.1	500	△34.9	500	△26.1	200	17.0	20.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期3Q	9,909,400株	30年3月期	9,909,400株
② 期末自己株式数	31年3月期3Q	625株	30年3月期	522株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期3Q	9,908,855株	30年3月期3Q	9,908,933株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料等に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は平成31年2月1日に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における運営状況と経営成績について、「リゾート挙式」におきましては最も人気の高いリゾート挙式エリアであるハワイにおいて、一時営業を休止していた当社主力挙式施設「コオリナ・チャペル・ブレイス・オブ・ジョイ」が10月にリニューアルオープンし、好調に稼働いたしました。さらに、7月にオープンした沖縄の新施設「古宇利島 空と海の教会」をはじめとした各エリアでの挙式商品の充実に加え、衣裳・旅行・映像などの付帯商品のラインナップを強化し、1組当たり単価の向上に努めました。

また、販売チャネル戦略として、全国の直営店舗の再編を進め、10月には、大阪の主要3駅直結の商業施設内に、受注専門店「梅田サロン」をオープンし、集客・成約共に好調に推移いたしました。一方、新たなチャネルとして、オンライン上で接客サービスを行う「リゾ婚オンラインカウンター」を11月に開設し、12月にはリゾート挙式などを販売するECサイト「EASY by WATABE WEDDING」をリニューアルオープンするなど、来店不要で挙式の申込みや打合せが可能となるサービスも本格稼働し、顧客の利便性向上や結婚式をしない「ナシ婚」層に向けた低価格商品展開を強化いたしました。

さらに、成長戦略の一環として、9月より販売開始したベトナム・ダナンでの挙式プランの受注が好調に推移しており、12月にはダナン市街地にウェディングサロン「ダナン店」をオープンし、新エリアでの婚礼サービスを開始いたしました。

「ホテル・国内挙式」におきましては、ホテル雅叙園東京では、90周年事業として「A MUSEUM HOTEL of JAPAN BEAUTY」を推進し、11月にフランス・パリでPRイベントを開催するなど、国内外に向けたブランド戦略を積極的に展開いたしました。ラグジュアリーシティホテルとしてのブランディング効果により、宿泊・婚礼共に、好調に推移いたしました。

メルパークでは、前期に実施した付加価値向上のための客室リノベーション効果に加え、レジャー層に向けての季節ニーズを捉えた訴求を行い、稼働率・客室単価が向上いたしました。婚礼部門においては、グループ間の協業を進め、メルパークのフォト事業をワタベウェディングの直営スタジオとして運営を行ったことによる売上増加、グループの人材リソースを活用した婚礼強化プロジェクト推進による挙式組数の増加など、収益に寄与いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高36,940百万円（前年同四半期比7.1%増）、営業利益1,107百万円（前年同四半期比7.1%増）、経常利益1,210百万円（前年同四半期比12.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益715百万円（前年同四半期比24.4%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、以下の数値は、セグメント間の取引消去後となっております。

① リゾート挙式

ハワイの主力挙式施設の営業再開や顧客ニーズに合わせた商品展開を行ったことなどにより、1組当たり単価が向上し、売上高は15,799百万円（前年同四半期比12.8%増）となりましたが、利益面につきましては、新施設や新事業立ち上げに伴う広告宣伝費、専門人材採用などのコスト先行による販売管理費の増加により、セグメント利益は195百万円（前年同四半期比17.8%減）となりました。

② ホテル・国内挙式

積極的なブランド価値訴求や客室リノベーションなどの効果により、売上高は21,141百万円（前年同四半期比3.3%増）となったほか、利益面につきましては、原価や販売管理費の削減に努めた結果、セグメント利益は876百万円（前年同四半期比14.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ687百万円減少し、9,486百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少によるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,834百万円増加し、16,014百万円となりました。これは主に建物及び構築物の増加によるものであります。この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ1,147百万円増加し、25,501百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ551百万円増加し、10,874百万円となりました。これは主に短期借入金の増加によるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ93百万円減少し、3,486百万円となりました。これは主に資産除去債務や固定負債のその他が増加した一方で、長期借入金が減少したことによるものであります。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ458百万円増加し、14,360百万円となりました。

純資産残高は、前連結会計年度末に比べ688百万円増加し、11,140百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間におきましては、業績は概ね計画通り推移していることから、平成30年5月10日発表の業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,689	5,896
売掛金	1,630	1,619
商品	220	227
原材料及び貯蔵品	410	467
その他	1,242	1,295
貸倒引当金	△19	△20
流動資産合計	10,173	9,486
固定資産		
有形固定資産		
貸衣裳(純額)	104	115
建物及び構築物(純額)	4,980	6,672
器具備品(純額)	1,191	1,217
土地	1,893	1,727
その他(純額)	455	237
有形固定資産合計	8,626	9,970
無形固定資産		
のれん	574	689
その他	597	811
無形固定資産合計	1,171	1,501
投資その他の資産		
差入保証金	2,718	2,702
その他	1,667	1,844
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	4,382	4,543
固定資産合計	14,180	16,014
資産合計	24,354	25,501

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,801	1,943
短期借入金	1,950	2,400
未払法人税等	251	407
前受金	2,788	2,690
賞与引当金	711	423
その他	2,819	3,010
流動負債合計	10,322	10,874
固定負債		
長期借入金	1,400	1,100
退職給付に係る負債	1,192	1,241
資産除去債務	805	877
その他	181	267
固定負債合計	3,579	3,486
負債合計	13,902	14,360
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,176	4,176
資本剰余金	4,052	4,051
利益剰余金	2,701	3,240
自己株式	△0	△0
株主資本合計	10,929	11,467
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23	22
繰延ヘッジ損益	△43	11
土地再評価差額金	△903	△781
為替換算調整勘定	485	457
退職給付に係る調整累計額	△64	△54
その他の包括利益累計額合計	△503	△344
非支配株主持分	25	17
純資産合計	10,451	11,140
負債純資産合計	24,354	25,501

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	34,480	36,940
売上原価	10,781	11,859
売上総利益	23,698	25,081
販売費及び一般管理費	22,664	23,973
営業利益	1,034	1,107
営業外収益		
為替差益	137	94
その他	72	76
営業外収益合計	210	171
営業外費用		
休止施設費用	157	49
その他	12	18
営業外費用合計	169	68
経常利益	1,075	1,210
特別利益		
固定資産売却益	7	412
その他	—	13
特別利益合計	7	425
特別損失		
減損損失	—	151
施設店舗整理損	84	164
その他	11	30
特別損失合計	95	347
税金等調整前四半期純利益	987	1,289
法人税等	405	573
四半期純利益	582	716
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	575	715

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
四半期純利益	582	716
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	△0
繰延ヘッジ損益	△14	55
為替換算調整勘定	36	△30
退職給付に係る調整額	△12	10
持分法適用会社に対する持分相当額	0	2
その他の包括利益合計	14	36
四半期包括利益	596	752
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	588	751
非支配株主に係る四半期包括利益	7	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	14,005	20,474	34,480	—	34,480
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,548	93	5,642	△5,642	—
計	19,554	20,568	40,122	△5,642	34,480
セグメント利益	238	765	1,003	30	1,034

(注) 1. セグメント利益の調整額30百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	15,799	21,141	36,940	—	36,940
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,625	140	6,765	△6,765	—
計	22,425	21,281	43,706	△6,765	36,940
セグメント利益	195	876	1,072	35	1,107

(注) 1. セグメント利益の調整額35百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ホテル・国内挙式」セグメントにおいて151百万円の減損損失を計上しております。